

取説サイズ：A4（297×210mm） 四つ折り時（約 105×148mm）

保護者の方へ ご使用前に必ずお読みください。

はじめに

このつみきは、需要が減少している国産材を使い、日本の木と木の文化を守ること、また日本の森林環境に少しでも貢献できるよう検討を続け開発されました。ひのき材は神奈川県丹沢の山で植林された上質なひのきです。このつみきをお使いいただいて、日本の木と木工仕事の良さを感じていただきたいと思えます。

つみきの大きさは赤ちゃんから安心して遊べるように、大きめにしております。そして、ご家族やおとなの方が最後の仕上げをしてからお子様にあげられるように、あえて最後の磨きの工程を残しております。心を込めて手作りで仕上げるすてきな贈り物になる事を願います。

まずは右ページの磨き方をご参考いただき、角も丸くして気持ちいい手触りのつみきに仕上げしていきます。つみきができたならお子様と一緒に遊びながらお話ししてください。感触の良さ、温かさ、軽やかなひのきの音・・・これがお子様の五感を育て、感性を育てることになります。大きめで優しいつみきを握って、「はいどうぞ」「ありがとう」などの、お子様とおだやかな語らいの小道具としてお使いください。

このつみきは、手にたっぷりとした量感や穏やかな感触が、心地よく手の働きをうながします。つみきは文字通り「積む」イメージが浮かびますが、子供の発達としては「つかむ」「にぎる」ことができれば、「手放す」「落とす」というように手の力をゆるめることが大事です。この「はなす」が手の力のコントロールで「並べる」「押す」「転がす」「立てる」などのさまざまな手の働きのもとになります。そしてこの手の遊び意欲を誘い高めるのが、おとながしてみせる「手のしぐさ」と「語りかけ」です。

まる、さんかくなどのシンプルな形から、イメージをふくらませて語りかけながら、つみき遊びを楽しんでください。さんかくの形でおにぎりとかテントとか、長いしかくにさんかくをのせて乗り物とか、いろいろ思い浮かんだら、お子様との会話にスイッチが入る見立て遊びのはじまりです。この空想と会話の経験が土台になり、ひとりでも遊びが広がり充実していきます。

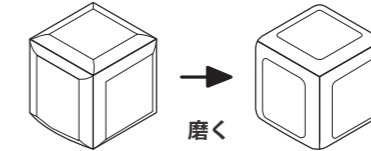
またこのつみきは、柔らかな木肌のため、お子様に安心ですが、反面、傷つきやすい木材です。お子様がいっぱい遊んでいるうちに、木肌ががさついたり汚れてしまうこともあります。その時はもう一度付属のサンドペーパーで木肌を軽く磨いてみてください。またなめらかな触り心地になって、ひのきの良い香りも復活します。

お子様がずっと大切に使ってくれて、永くあそんで頂ければと願っております。

監修 / 木のおもちゃのてらうち・てらうちえほん

「おとなが仕上げるつみき」の磨き方

このつみきは おとなが最後の仕上げをしてからお子様に使っていただく事を前提としています。下記の磨き方に沿って、必ず仕上げ磨きをしてからお子様にお渡しください。



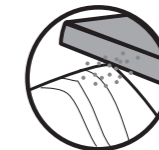
1. まず握って触ってみてください

角のところが手に痛いくらいだと思います。他にも広い面でザラザラしているところなどを事前に確認してください。木肌の状態によって一番ざらつきやすい木口（コグチ）面が特にざらついたり、丸面加工が粗い状態が残っていることがあります。手に痛いところ気になるところを磨いて気持ちいい触り心地のつみきにしていきます。



2. きほんの磨き方

付属のサンドペーパー（180番）を使い、それぞれの角のところがっている頂点部分を丸めることと、ざらついたり気になったところを磨きます。お子様の手や肌でも痛くないように丸めていきます。



3. もう少し磨きたい人は

そんなにざらついてなかった広い面もサンドペーパーで磨いてみましょう。この時、なるべく木目の方向に軽めに磨くようにします。あまり強く磨くと、かえって木肌が傷つしまうので、少しずつ磨いた木肌の様子を指で触ったりして確認しながら磨いていきます。丸く面取りしてるところは軽く磨くといいでしょ。



4. もっと本格的に仕上げるには

細かい目のサンドペーパー（800番～1000番程度）を別途用意して、2の工程の後でもう一度、角、広い面、丸面を磨きます。この時も少しずつ、磨く度に指で木肌の状態を確かめながら行います。ここまで磨くと、さらになめらかなつみきになるはず。



5. 最後に必ず行ってください

磨くときに、削った木の粉が出ます。木の粉など表面についた粉を柔らかい布などで十分に取り除いてから、お子様に与えてください。

⚠️ ご注意

・付属のサンドペーパーはおもちゃではありません。お子様の手の届かない場所で管理をしてください。